

ロンドンオリンピックとサステナビリティ

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

7月27日～8月12日までロンドンで開催されたオリンピックは、過去最多に並ぶ204の国と地域から、1万人を超える選手が参加し、世界中の関心が寄せられました。今回のロンドンオリンピックの運営にあたっては、計画段階からサステナビリティ（持続可能性）がテーマに掲げられており、新たな規格の誕生に寄与しました。

2011年、主催団体である「ロンドンオリンピック・パラリンピック競技組織委員会（LOCOG）」は、イベントに関するサステナビリティ マネジメントシステムである英国規格 BS8901 を取得しました。この規格は、ロンドンオリンピックを環境・社会・経済のバランスが取れた大会として運営するために2007年に策定され、これまでに2009年にデンマークで開催されたCOP15（第15回気候変動枠組条約締約国会議）が取得しているほか、日本では、2011年に、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）やAPEC首脳会合を手がけたイベント企画会社がアジアで初めて取得しています。そしてこの規格を原案とした新たな国際規格となる ISO20121（イベント・サステナビリティ マネジメントシステム）が2012年6月に発効され、ロンドンオリンピックが取得しました。

これまでにLOCOGは、2006年に「ロンドン2012 サステナビリティ方針」、翌年には「同サステナビリティ計画」（2009年改訂）を策定しており、建設、準備・計画から大会運営、大会終了後に至るまで、「気候変動」「廃棄物」「生物多様性」「インクルージョン（社会的な一体性）」「健康的な生活」の5つのテーマに取り組むことを掲げています。

「気候変動」、「廃棄物」、「生物多様性」については、大会におけるカーボンフットプリントを最小限にとどめ、廃棄物ゼロをめざすことなどが掲げられており、環境配慮の取り組みが見られます。「インクルージョン」については、サプライヤーや労働力の多様化を促進し、機会均等を図るほか、国中のコミュニティが関与することによって、オリンピックの経済効果をできるだけ広く公正に波及させることをめざしています。これにより、2012年までに失業者を7万人削減し、今後5年間で2万人のトレーニングを行うことなどを打ち出しています。また、「健康的な生活」では、国民がスポーツを始めるなど、活動的で健康的かつ持続可能なライフスタイルを営むよう、啓蒙しています。

このように、世界のあらゆる社会的活動においてサステナビリティを考慮する動きが、グローバルスタンダードとしてますます求められていくのではないのでしょうか。

参考資料：London 2012「Pre-Games Sustainability Report」April, 2012
London 2012「Sustainability plan summary」February, 2010